

表書院

表書院として知られる、三宝院のメインの応接室は、3つの部屋で構成されています。下段の部屋は舞台として使用できます。中段と上段は一段高くなっており、観客が舞台上の動きを見ることができるようになっています。

日本の古典舞踊の能と、狂言と呼ばれる能の合間にしばしば行われる喜劇が演じられる建築になっていました。

上段の襖には、四季の柳が描かれています。中段は山で飾られています。2つの部屋の絵は原作者不明ですが、長谷川等伯（1539-1610）派で訓練した画家によるものと考えられています。長谷川等伯派は、自然の詳細な描写に焦点を当てていました。下段の孔雀の絵は、動植物で有名な画家である石田幽汀（1721-1786）によるものです。